

01-039

「乳児スキンケア教室」指導の有用性

谷 美樹、鶴田 恵子、土屋 千枝

川井小児科クリニック

【はじめに】

アトピー性皮膚炎や食物アレルギーの予防には乳児期からのスキンケアが重要である。しかし外来診療の中だけでは十分な説明、指導時間の確保が難しい。そこで、当院では乳児の乾燥肌や湿疹に対し「乳児スキンケア教室」の時間を設け、看護師がスキンケアの必要性の説明、実践指導を行っている。この乳児スキンケア教室による指導内容がその後どれだけ実践されているかを検討した。

【対象と方法】

対象は皮膚症状のある生後1か月から12か月の乳児。教室は週1回、参加者3名、1時間。多目的ルームにて看護師がスキンケアの必要性をパネルで説明し、入浴法、人形を使った清潔の仕方、保湿剤、ステロイド剤の塗布の仕方を指導した。平成26年1月から平成30年12月末までの参加者451名のうち386名分の教室参加1か月後のアンケートを回収した。更に77名分の教室参加1年後アンケートを回収した。尚、アンケート記入には対象者の同意を得、匿名性の確保に注意し、調査目的以外には使用しない事とした。

【結果】

乳児の皮膚の状態は発赤54%、乾燥40%、湿潤6%。「顔にも石鹸を使用する」は教室前75%が1か月後98%。「顔も頭もシャワーで流す」は教室前21%、1か月後80%。保湿剤の使用は教室前77%、1か月後100%。また、教室前ステロイド剤の使用に抵抗を感じると回答した保護者65%も1か月後には77%が指導どおりに塗布していた。保護者から見た皮膚症状は改善44%、まあまあ改善47%、あまり改善なし9%、悪化0%と全体の91%が皮膚症状の改善を感じた。

次に、教室1年後の皮膚の状態は乾燥20%、発赤25%、乾燥と発赤10%、トラブルなし45%と半数近くが皮膚トラブルなしと回答した。保湿剤について、毎日使用73%、時々使用18%と91%が保湿剤を継続的に使用していた。

【まとめ】

「乳児スキンケア教室」参加1か月後の調査で指導内容が家庭で十分実施されていることがわかった。多くの保護者は乳児の皮膚が改善したと回答し、肌トラブルの改善を実感する事に繋がったと考える。また、1年後も保湿剤を使用している保護者が多い事から継続的にスキンケアが実践されており、「乳児スキンケア教室」による指導はとても有用と考える。